

JSR 株式会社

2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明電話会議 議事録

(2023 年 11 月 6 日開催)

決算補足資料:

https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/143682/00.pdf

P3 全体サマリー :

- ・FY23Q2 の実績は全てのセグメントで QoQ で大幅な増収増益。対面業界の需要は SEMI 中心に依然厳しいが、QoQ では業績が改善。Q1 は LS で会計要因及び大規模修繕による生産停止があり、特殊要因として大幅なマイナスが生じたが、Q2 は当影響がなくなった。
- ・今回通期業績予想を下方修正。コア営業利益を当初 420 億円から今回 180 億円へ。需要環境は回復基調にあるものの、足元の需要環境の不透明感を下期見通しに反映させた。
- ・SEMI の需要は HoH ほぼフラットと想定。対面業界は Q1 以降 Logic で回復方向にあり、下期もこの傾向が継続すると見込む。一方メモリーは下期に向け一段と生産調整が進む可能性があり、総じて上期並みの需要環境に留まると想定した。又 DISP は上期 FPD (フラットパネルディスプレイ) 業界で想定を上回る高稼働が見られたが、足元で調整局面に入っており業績予想に反映させた。全体で SEMI の販売量減少を反映し下方修正とした。
- ・SEMI の本格的な需要回復は FY24 を見込む。市況回復に加え AI 向け Chip などが市場を牽引し、強い成長軌道に戻ると見込む。当社は先端材料中心にシェアを拡大。EUV は MOR 含め全体需要が悪い環境下においても、販売を伸ばした。
- ・LS は一時要因の反映の他、特に欧米、中国における小規模バイオテックの開発活動は回復傾向にはあるが、今年度は弱い状況が続くと想定し、CRO、CDMO 等の業績予想に反映させた。
- ・一方、LS 全体では HoH で大幅な売上利益の拡大を見込む。IVD の検査キット販売は下期に予定通り見込まれる。又、CDMO の新工場の拡大、全般での販売回復等を織り込んだ。
- ・今回の業績予想の下方修正に当たり、全社でのコスト抑制の強化、又、事業構造改革を含めた収益改善策を進めていく。
- ・一方、今回の業績予想の修正は、短期需要動向の見積もりの反映であり、当社の事業戦略、中期ビジョン達成の進捗は変わらない。各事業のシェア拡大、技術開発力の強化、収益性の強化への取組は確実に進展させている。需要回復期には V 字による利益拡大を見込む。
- ・JIC (産業革新投資機構) グループによる当社株式の公開買付けの開始予定について 6 月 26 日に発表。戦略的方向性が一致する JICC との戦略的パートナーシップにより、非公開化の上、戦略推進を加速するとともに、半導体材料業界の再編を機動的に推進。国際競争力と各事業の中長期的な成長力の強化を目指す。株主、グローバルなお客様、従業員、パートナー含め全てのステークホルダーにとって最善の選択肢になると期待。
- ・現在国内外の関連規制に基づく手続きを予定通り推進中。既に開示済の事項に変更はなし。具体的には、これら規制の届け出対象として想定している国内外の関連当局への書類提出は完了。
- ・公開買付け開始時期は、12 月下旬を目途としている。開示済の事項の通り、手続き期間の正確な予想は困難であり、これらが終了次第、具体的なスケジュールを決定し改めて開示する予定。

P4 決算のポイント : FY23H1 実績

(YoY コア営業利益) YoY 減収減益。コア営業利益差異を Water Fall で分析。

DS：-100億円の減益。対前年比の需要減の影響。SEMIで売上が約-20%。昨年度上期は半導体需要に一部不透明感は出つつも全体では堅調。今回需要環境が大幅悪化。半導体サイクルの影響。需要の指標となるシリコンウエハーの投入面積も同様の減少をしたと見ている。DISPは増収増益。FPD市況の回復による顧客の増産影響。ECはスマホ市場低調の影響。

LS：一時的要因でCDMOにてQ1に約45億円の損失計上。計画内ではあるがコロラド工場の大規模修繕を実施、在庫評価の引当金等の計上が影響。昨年は上期にIVDの検査キット販売があったが今年度は下期計画。CRO等で一部需要低迷も影響。

PLA：売買スプレッド改善による増益。

OTH：コスト削減による増益。

(QoQ コア営業利益) QoQ 増収増益

DS：増収増益。SEMI、DISPともに増収増益。SEMIの需要環境は弱いがQoQでは売上改善。EUVは確実に進捗している。

LS：一時的要因の約45億円の剥落による改善の他、CDMOの収益が改善した。

PLA：需要は回復基調であり、又価格改定による売買スプレッドも拡大した。

全社で対前年大幅減益であるがQoQでは確実な回復。

P5 実績 YoY, QoQ

YoY: H1 実績は-10億円。対前年約180億円の減益。DS、LSで減収減益。

- ・DSは減収減益。半導体サイクルの影響。SEMIで売上が-19%。
- ・LSは減収減益で赤字。Q1の会計要因含む特殊要因及び需要環境悪化の影響。
- ・PLAは増収増益。

QoQ：全セグメントで大幅な増収増益。需要環境は依然弱いものの最悪期は脱し、QoQで改善した。特殊要因も剥落。

P6 セグメント別損益：デジタルソリューション事業

(YoY) 減収減益

SEMIでは前述通り減収減益。DISPは顧客稼働好調で増益。ECも需要環境要因による減収減益。DSの減益要因の主因は販売減による限界利益減の影響。固定費は、SEMIの将来投資によりYoY増加も、計画未満でコントロール。

(QoQ) 増収増益

各セグメントで増収増益。SEMIの販売は最悪期を脱した。固定費も発生タイミング差及びコスト抑制により減少。

P7 デジタルソリューション事業：主要製品売上推移

EUVがYoYで+15%の売上増を達成、QoQでは+35%と拡大。全体の半導体需要は低調も、先端のDRAM向け販売等が拡大した。MORも好調に推移した。

P8 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

(YoY) 減収減益

- ・減収は昨年度 IVD 検査キットの販売による影響が主要因。今年度は下期に販売を計画。
- ・減益は各事業の減益影響。前述の IVD 検査キットの他、CDMO の Q1 の特殊要因、CRO、BPM の一部需要減による販売低調による減益。

(QoQ) 増収増益

- ・CDMO の特殊要因剥落と売上拡大による増収増益。CRO、BPM も受注は拡大してきており増収。

P9 セグメント別損益 合成樹脂事業

(YoY)増収増益

- ・需要回復途上。販売価格の改定によるスプレッドの拡大により増益。

(QoQ)増収増益

- ・継続的な販売価格の改定によりスプレッドが拡大し増益。

P10 FY23 通期業績予想 ポイント (修正後)

- ・今回の通期業績見直しにより、コア営業利益は当初の 420 億円から 180 億円へ減益を見込む。
- ・減益要因を Water Fall で示す。DS 事業の売上減少による限界利益の減少影響が大きい。SEMI は対当初計画で 10%強の販売見込減を反映した。半導体業界は当面は不透明感もあり、下期の需要前提は HoH でフラットとした。DISP は下期に稼働調整による需要減を織り込む。上期反動の一部調整。LS は対前年では売上が拡大するものの、当初想定からは数%未達。その分の限界利益減少分を反映した。
- ・全社的に固定費は計画内で管理。全体で 10 億円超のコスト削減を織り込んでいる。
- ・その他要因では為替関係で約 20 億円。当初 135 円/ドルの計画前提から 143 円に変更。円安のプラス効果を反映。
- ・LS 事業の特殊要因が、当初計画対比で利益減方向に影響。Q1 に計上した会計要因で 20 億円。その他 CDMO 中心に在庫の廃棄見込、一部顧客との取引に貸倒引当金計上を反映。これらは現時点の見積もり。バイオテック業界では、金利上昇等により資金流入が減少した。LS の顧客ポートフォリオには、小規模のバイオベンチャーも多く、又、非臨床等前期の開発プロジェクトは受注期間が短期のケースもあり、需要動向や債権回収に一部警戒を要する。これらのリスクを見込みに織り込んだ。
- ・一方、今回の業績見直しへ未反映であるが、実行中の更なるコスト削減や収益改善策、LS 関係の売上拡大、前述のリスク要因排除は、アップサイドの潜在要因となる。これらも積極的に取り組んでいく。

P11 実績 vsFY23 計画 (変更あり)

- ・業績見通しの具体的な数字を記載。全社では上期から下期に向け大幅な利益の回復を見込む。
- ・DS は HoH で減益。SEMI においては売上及びコストの発生タイミングの影響を含む。基本的に HoH で需要環境はフラットの前。DISP は顧客の稼働調整により HoH では減収を見込む。
- ・LS は大幅な利益回復。下期に廃棄損等の特殊費用をコストに織り込んでいるが、IVD 検査キットの販売、CDMO の生産拡大による利益貢献、CRO、BPM の需要回復を織り込む。加えて、収益改善策の実行、オペレーション改善のプロジェクトも強力に進めていく。当下期、来期に向けて確実に成果を出す。

・PLA は、需要回復による販売拡大、売買スプレッドの更なる改善、コストダウンを計画している。

P12 業績見通しに関する市場前提

・SEMI 需要の目安となるシリコンウエハインプットは、当初は今期-5%程度、ほぼ昨年度フラット程度を想定するも、H1 は-15%~-20%と大幅に下落した。徐々に回復に向かう方向ではあるが、年度通期においても-10%超の下落となる見通し。FY24 は2桁の力強い成長を見込む。

・DISP の主要顧客である FPD メーカーの稼働状況は、上期好調も下期に稼働調整となり、年度では当初見込みに対して若干低くなる見通し。来期は稼働が上がっていく見通し。

・自動車生産は、半導体不足の解消を受けて回復基調が継続。当社 PLA 需要拡大にも波及する見通し。

・バイオ医薬品市場は、前述の一部での停滞はあるも全般的には堅調。一方バイオテック市場への投資は 22 年度大幅に落ち込んだ。23 年度も落ち幅は減少するも弱い状況。但し底は打ち、足元当社でのこれら業界からの受注は回復してきている。

P13 ライフサイエンス事業（CDMO）KBI 新工場 生産計画の進捗

・棒グラフは各 Q に開始された生産バッチ数を表す、折れ線は生産能力。

・現有の KBI の生産能力を大幅に増加させるノースカロライナ新工場が、昨年度後半より商業生産を開始。前 Q に続き Q2 も稼働は好調。年度後半に向けフル稼働を見込む。現時点では、通期で計画を上回るペースでの稼働も想定している。KBI で実行している収益性改善プロジェクトの成果により、生産キャパシティも追加コストなしに拡大し、今期及び来期の生産拡大に貢献する見通し。

【表記注記】

デジタルソリューション：	DS
半導体材料事業：	SEMI
ディスプレイ材料事業：	DISP
エッジコンピューティング：	EC
ライフサイエンス：	LS
合成樹脂：	PLA
前年同期比：	YoY
上期対下期：	HoH
前四半期比：	QoQ

以上